

ヨーヨー風船で
エイ・ヤ〜!!

No. 60

2012. 7. 30発行



安心して住みよい町に！

議会だより

からうら

国保税増税に激論	2
モニターアンケート	4
6議員町政を問う	5▶10
きびきびと操法大会	11
勝中バスケット部紹介	12

まず、健康・予防対策

6月
定例会

一般会計補正予算 1,098万円

〈内訳〉

- 杉の子基金積立金…………… 1,000万円
- 道の駅改修工事…………… 98万円

……主な議案……

- 暴力団排除条例の制定（安全で平穏な生活）
- 国民健康保険条例の改正（保険税の増税）
- 損害賠償額の決定（救急患者輸送車の事故対応）

質疑が集中 国民健康保険条例の改正

- 国清** 健康対策と増税の周知は。
- 前田税務課長** 健康管理には「特定健診」を毎年受けることが重要である。増税については広報等で周知する。
- 川端** 繰越金の有効活用は。
- 前田税務課長** 医療費の見積額の多少によって繰越金が変わってくるが、できるだけ長く健全財政で運用したい。
- 森本** 低所得者への対応は。
- 前田税務課長** 所得に応じた「軽減措置」や「減免措置」がある。
- 美馬** 医療費の抑制はどうするのか。
- 中田町長** 国保会計の健全な運営には多くの人の「特定健診」の受診や、健康に対する意識の高揚が必要である。

国保税 増税に激論

6月定例会は13日から21日まで開かれ、条例の制定3件、改正6件、24年度の補正予算2件、損害賠償の額の決定などが提案され可決しました。

また、追加議案として、人権擁護委員の推せんについて提案があり可決しました。

一般質問には6議員が町の政策などを問いました。

総務産建常任委員会

6月5日委員会を開催し、補正予算や条例の一部改正などを審議しました。

道の駅改修工事

問 フリースペースの常時活用と衛生管理のため、厨房カウンターのシャッターを設置するが、

工事費の負担はどうするのか。

答 町の施設であるので全額町負担とする。

対応が遅い 救急車の事故

問 2月に事故が発生している。対応が遅い。



運行状況が検証できるドライブレコーダー

答 過失割合の査定に時間がかかり、損害賠償額の決定が遅れた。

問 隊員の指導徹底は。

答 ドライブレコーダーを設置して運行状況を記録し、後で検証できるよう改善した。

東部広域農道整備促進特別委員会

中山工区、全線つながる

事業費1億4400万円に増額

6月6日、23年度事業報告と24年度計画の報告があった。

中山工区の神谷川上流で、橋りょうが必要な箇所79mが残っていたが、今年度の予算が大幅増額となり全線つながることになった。



橋がかかる神谷川上流

文教厚生常任委員会

6月4日委員会を開催し、補正予算や条例の一部改正などを審議しました。

国民健康保険税の一部改正

税務課から改定税率案が提示され、委員から多くの質問があった。

〈審議内容〉

- ・住民への説明が不十分。国保運営協議会で審議する必要あり。
- ・繰越金や基金があるので、経済状況からも今年の増額は断念してほしい。
- ・急激なアップは困る。
- ・予防に力を入れ、医療費の抑制につなげるべき。

〈運営協議会の答申〉

5月28日に開催された国保運営協議会で「将来に付けを残すのではなく、これからも維持、継続していくための改正はいたし方ない」という答申が出された。文教常任委員会として提案を認めた。

23年度勝浦病院事業特別会計決算の報告 外来患者数の減少

人口も減少しているが、喜楽苑のデイサービス日の通院ができなくなったことなどが考えられる。



人権擁護委員推せんに同意

任期満了に伴う勝浦町人権擁護委員について、次の方の推せんに同意しました。

大久保 十祈子氏（今山）

「杉の子基金」創設

低迷する町内企業を活性化！

溝田義昭氏 一千万円寄付

横瀬の溝田義昭氏から産業振興と雇用促進を目的に、1000万円の寄付があった。

町では、それを原資として町内で新しく起業した人に上限50万円の補助金を支給する「杉の子基金」を創設する条例を制定した。



溝田氏のコメント

私が25歳の時、無利子、無担保の後継者資金50万円を借り、子牛5頭を購入し肉牛の飼育を始めました。決して平坦な道では有りませんでした。町をはじめ多くの人に支えられ、規模拡大や直売店も開業することができました。

70歳を機に何かご恩返しと考え、寄付させていただきました。

童謡「お山の杉の子」の歌詞のとおり、今は小さくても大きな夢を持ち新しく事業に取り組む人に活用していただき、町の活性化につながれば幸いです。

議会だより

「いかに読んでもらうか」

広報モニター

アンケート結果

今年4月から発足した議会広報モニターの方々に、4月30日発行の「議会だより59号」に対し、感想などアンケートを実施した。

全体的には「わかりやすい」とのことですが、それ以前に「いかに読んでもらうか」子供でも読める記事や、写真、絵、図などを多くして親しみが必要であるとの意見が多かった。

また、一般質問で無意味な質問や、「議会で取り上げる問題ですか」と疑問を感じる質問もある。

議員の立場は「個人ではない。公のため」と言う自覚をもってほしい」との意見があった。



「検討」検討」ばかりではダメ

一般質問で実態を知らない回答や「検討したい」と、検討していく」などの回答があまりにも多過ぎる。「再質問をし、その結果を追跡するなどして紙面で報告するべきである。」など具体的な指摘も多かった。

議会広報委員会では、これら貴重な意見や指摘を生かし、一人でも多くの方に読んでいただく議会広報をめざしたい。



河野道雄議員



脱原発に向けての認識は

将来的には
原発に依存しない方向で(町長)

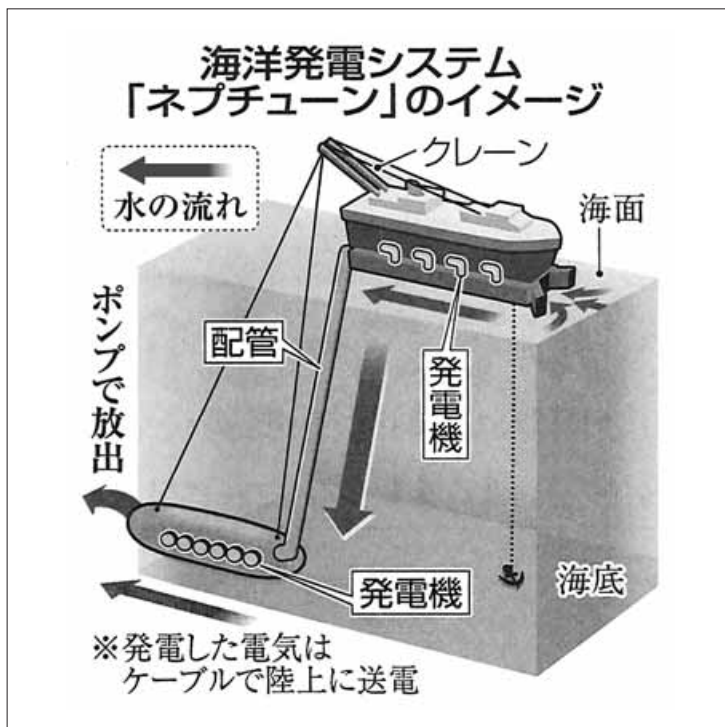
答 小林副町長

原発事故は広範囲な地域

問 日本には54基の原発があるが、昨年3月の東日本大震災で福島第一原発が大きなダメージを受けた。今回、大飯原発の再稼働が求められているが、今こそクリーンエネルギー移行に絶好のチャンスである。脱原発にむけての認識は。

答 被害の深刻さを考えれば将来的には原発に依存しない方向で、今後の時代に課せられた要請でもある。

問 神戸大学の西岡教授が海を巨大なダム



答 中田町長

で深刻な環境汚染を招き、今なお多くの住民が避難生活之余儀なくされており、その影響は計り知れず、二度と起こしてはならない。

答 小林副町長

と見立てて、無尽蔵にある海水を利用して水力発電とするシステムを考案した。国、県に実用化に向けた検討を要請しては。

答 中田町長

自然エネルギーについては環境へ与える負荷が少なく、枯渇しない永続的に使える資源であるので導入を促進する機会を捉えて、県など関係機関にも要望したい。

海を巨大ダムに見たて代替エネルギーができれば非常に貢献する。

資料を参考にして国、県の関係団体に機会ある時にはぜひ紹介して行きたい。

低所得者対策は

国民健康保険税

問

今年度、国民健康保険税の改正が提案

されているが、低所得者に対する負担が大きくなる。対策は。

答 前田税務課長

低所得者に対しては世帯の所得に応じた減額制度がある。そのためには住民税の所得申告が必要である。

問

今後、国保の運用も厳しい状況になると思われるが今後の課題は、また、町民の体力増強、健康維持のため万歩計を支給してはどうか。

答 前田税務課長

第一に医療費の抑制があげられる。医療費が少なくなればその分、繰越金や基金が長く使えることになる。

答 中田町長

町単独で脳ドックなどの助成をしており、特定検診で生活習慣病の早期発見、早期治療により健康に努めてもらいたい。

万歩計の支給は考えていない。

その他の質問

○パソコン教室の開催を

農業後継者対策

新規就農者給付金制度の活用を

広報に掲載、希望者を募っている

(産業交流課長)

山野 忠男 議員



問

4月の農業新聞によると、全国で新規就農者給付金制度の希望者が殺到している。本町の取り組み状況は。

また、6月の広報での募集内容は説明不足であり、この制度の利活用をもっと積極的に進めるべきだ。

答 野上産業交流課長

県では、全体で180人程度の予算で取り組む計画

だが、本町では目標人数を設定していない。
現在、広報に掲載し希望者を募集しているが、今後、中山間代表者会等でも説明し、掘り起こしをしていきたい。

答 小林副町長

広報で周知したところ現在、2件の問い合わせがあるが、経営開始計画はまだ提出されていない。人・農地プランの作成等は応募者の状況を踏まえ検討していきたい。

高齢者の農作業

省力化、合理化の推進を

問

農業従事者の中には高齢化が進み農作業がきつくなり、今までできていた農薬散布や肥培管理が思うようにできず、品質の低下や減反、廃園につながっている。高齢者が作業しやすいアイデア商品の開発や

答

野上産業交流課長

省力化、合理化の推進を図る必要があるのでは。
平成23年度には貯蔵庫の改修やセイロの昇降機を、平成24年度からは車の荷台に重い荷物を載せる「荷台搭載補助機」の補助制度を取り入れている。
また、以前からあるモノレールや小型動力運搬機の補助制度等も活用してもらいたい。



積み卸しが楽な補助機

問

人口減少をくい止めるには工場誘致が一番効果的だが、最近の取り組み状況は。

また、船井電気跡地の活用を考えたことがあるのか。

答 野上産業交流課長

県から誘致の情報提供があるが、条件が合わず難しい状況だ。

答 中田町長

今後、県道の2車線化を進め、企業誘致に地理的な有利性を生かせるよう取り組んでいきたい。

また、船井電気跡地については何年も交渉していないので、機会を見て打診してみたい。

工場誘致

できないか

人口減少問題

今後、高齢者の農作業の軽減や省力化ができるアイデア商品等については営農講座等で紹介し、共有できるように補助制度を考えていきたい。

美馬友子議員



高齢者対策

移動支援のニーズに どう応えるのか

要支援者にタクシー助成（福祉課長）

問

勝浦町では2070人が65歳以上の高齢者で、何らかの不安を抱えながら生活している。23年度のアンケート調査で56・4%の人が移動支援を望んでいる。このニーズの結果を受けて町はどのような計画で高齢者に応えて行くのか。

答

大西福祉課長

昨年のタクシー券の実績は16万5500円であった。24年度は90万円の予算を計上している。

答

中田町長

高齢者を地域全体で支えるネットワークづくりが今後、重要な課題である。

問

ゴミ出し困難者への支援策はあるのか。

答

岩佐住民課長

高齢者支援として軒先収集を実施しているが、地域のコミュニティーを利用して隣近所の協力もお願いしたい。小さなゴミ袋の試行的な実施も今後、研究して行く。

国保の 特定検診率が低い

問

特定検診の受診率は低く、27年度には65%をめざすとあるが現状と課題は。

答

前田税務課長

国保の特定検診対象者数は1164人。受診者数は439人で、37・7%である。

答

大西福祉課長

課題は未受診者対策で、健康手帳を配布するなど受診を推奨して行く。



大西福祉課長

問

予防や早期発見で医療費の抑制ができてきているのか。

答

大西福祉課長

糖尿病は改善できておらず増えている現状であり、保健指導は生活改善を重点に行っている。

教育環境の充実を

問

学力保障の取り組みは重要と考えるが、放課後の学力実態に応じた支援を行う学習指導員を配置しては。

また、有償ボランティアで授業についていけない生徒に学習サポートするなど対策はあるのか。

答

北島教育長

学力格差はあるが、教師の努力によりわかりやすい授業に取り組んで行く。ボランティア等での指導は、免許の関係でできない。

問

小学校と中学校が連携して継続的に教育活動を行うべきであり、実際にできているのか。

答

北島教育長

効果的な授業が進めることができるのか調査・改善の指定を受け、英語については3年間実施してきた。将来は英語以外にも広げて行きたい。

交流政策

新たな取り組みは

大手旅行代理店との連携を（副町長）

部 公一 議員



に有名になってきているので、大手旅行代理店と連携することにより、さらなる

集客力を高めることも考えられる。

交流人口が増えれば、町内での消費拡大や人との出会いによる心の豊かさの向上にもつながるので、道の駅を中心とした交流政策に力を入れて行きたい。

問

「道の駅」の運営母体は26年度から町営以外に移行する予定になっているが、今のところ受け皿になるような組織は育っていない。

問

母体は26年度から町営以外に移行する予定にな

今後、どのように道筋をつけて行くのか。

答 小林副町長

今後の運営形態としては

指定管理を含め、公募による民間事業者への委託などが考えられるが、期間内に移行できるよう努力する。

問

国内の全原発電

節電対策

具体的取り組みは

止を受け電力供給不足の懸念から、徳島県には2010年夏に比べ7%の節電要請が来ている。

町では具体的などのような取り組みをするのか。

また、町内の事業所や一般家庭への節電要請はどうするのか。

答 伊丹企画総務課長

庁舎内の空調関係では、設定温度の厳守や時間外の使用制限などを実施し、毎週水曜日はノー残業日として節電に努めている。

節電の協力要請は、電力消費の状況を見ながら必要となれば広報活動で対応する。

魅力ある

勝浦中学校に

問

町内の小学校から町外中学校へ進学するケースがある。

勝浦中学校で学べば高校受験に必要な学力は身に付き、いじめや不登校などに対しても十分な対応ができる学校にならなければいけない。

学力向上対策や不登校対策として、スクール・ソーシャルワーカーを配置し、県下のモデル校をめざしては。

答 北島教育長

地元以外の中学校へ進学されていることは大変残念に思っている。

スクール・ワーカーの配置は前向きに検討する。

問

地域おこし団体の活動は年々活発化してきているが、行政サイドの対応が遅れている。

新しく産業交流課となったが、新規の取り組みは。

また、町民が経済的効果や人との出会いによる満足度を実感できるには、どのような取り組みが必要か。

答 小林副町長

ビッグひな祭りは全国的



地域おこし協力隊の木島さん(左)・大友さん

森本 守議員



通学路の 安全確保が必要では

危険箇所は現在調査中 (企画総務課長)

問 最近、各地で通学
中の事故がよく報道
されている。県からの指導
はあるのか。

答 小林副町長

今年に入って立て続けに
事故が起これ、県教委から
も4月24日「幼児、児童、
生徒の交通事故防止につい
て」、5月2日「通学路の
安全確保」、5月8日「交
通事故防止、安全指導」、
6月11日「通学路の交通安
全の確保の徹底について」、
各学校における通学路の合
同点検を実施するよう依頼
があった。

問 黒岩地区の通学路
で、崩壊箇所改修計
画はどうなっているのか。

答 柳沢建設課長

県では、平成10年ごろか
ら経過観測中である。
また、昨年春に町長と県
土整備局長が現地調査して
いる。

問 町内には一時停止
の標識がない所や、
停止線の消えている所が多
数ある。安全上問題はないか。

答 伊丹企画総務課長
町内は危険箇所が多く、
現在調査中である。

問 町道「久国学校線」
は雨が降ると水たまり
ができ、下流が暗きよに
なっているので危険ではな
いか。

答 柳沢建設課長

「久国学校線」は、石倉
谷川と隣接して幅2・5m
と狭い。今後、歩行者を主
体に考えて行く。



柳沢建設課長

健康寿命について

問 最近、一生のうち
自立して生活できる
健康寿命について報道され
ているが、勝浦町の実態は、

健康寿命について報道され
ているが、勝浦町の実態は、

答 大西福祉課長

徳島保険所管内の健康指
標にも健康寿命というのが
あり、介護保険の認定者数
要介護度2以上を用いて算
出したもので、勝浦町は男
性78・3歳、女性81・9歳で
ある。

中横水道

水質管理について

問

中横水道
水源地の山
林に、ゴミや残土
などの廃棄物で水
質汚染が懸念され
る。地元から強い
改善要望がある。
至急対策が必要で
は。

答 中田町長

土壌や水質の検査につい
ては専門のコンサルタント
に調査を依頼し、その結果
により対応する。



水質汚染が心配される廃棄物

「命を守る」

消防の常備化を

安全・安心には欠かせない(副町長)

国清一 治議員



備化」を進めるべきである。

答 中田町長

事故については、十分反省しながら教訓を生かし、町民が安心できるよう対応したい。

答 小林副町長

消防の常備化は、町民の安全・安心のためには欠かすことができない。積極的に取り組みたい。

問 今年の2月に3度目となる救急患者輸送車による事故が起きている。町民に不安感が広まっている中、再発防止に向けて早急な対策が必要ではないか。

また、近年必ず発生する3連動地震などの大規模災害を想定すると、今の消防・防災体制では「町民の命を守る」ことはできない。救急体制も含めた「消防の常



災害時に応援協定のある小松島市

「とにかく歩かんで」 国保増税より健康対策

男女とも糖尿病が多い(福祉課長)

問

3年ぶりに国民健康保険条例が改正され大幅な増税となる。大きな要因は医療費の急増による国保会計の単年度赤字が3年間続いたことにある。

問

康教室、広報による病氣予防策を呼びかけている。県・町の糖尿病の実態は。

答 大西福祉課長

徳島県は全国ワーストワ。勝浦町も男性の死亡率要因は糖尿病が最も高く、女性では肝疾患と並んで1位である。

問

健康は足からと言われ、町内でも朝夕に歩く人も増えており、各種団体による「歩くイベント」の開催も多くなっている。

答 中田町長

今後、町主催で健康的な「ウォークイベント」などに取り組んではどうか。

私は鶴林寺を中心としたウォーキングコースが、史跡を見ながら町のPRになると考えている。

答 前田税務課長

特定健診や悩ドックなどを実施。また、保健活動として健

■その他の質問

○町に新風を



安心の防災 ③ キビキビと!! 消防操法大会

勝浦町消防団・ 第9分団出場

7月22日、県消防学校において「第28回徳島県消防操法競技大会」が開催され、勝浦町消防団から第9分団（沼江、石原、掛谷地区）が出場しました。

寒さきびしい2月から練習を始め猛暑の7月までの半年間、分団員一丸となって厳しい訓練を続けてきました。大会ではトップバスターで出場し、日ごろの訓練の成果を遺憾なく発揮した。

「キビキビとした動作」に万雷の拍手で健闘をたたえました。この操法大会の貴重な体験を、今後の消防・防災活動に生かしてほしい。



消防操法大会に出場した、指揮者（松下団員）、1番員（宮本団員）、2番員（瀬戸分団長）、3番員（阿部班長）

参加しませんか

防災研修会 「阪神淡路大震災に学ぶ」

8月8日 午後2時から 住民福祉センター

大災害から身を守る基本は「自分の命は自分で守る」という意識であり、日ごろから「いざという時」の備えが大切である。議会防災対策特別委員会では、昨年引き続き防災研修会を計画しております。

今回は、平成17年1月に発生した「阪神淡路大震災」の語り部・野島断層保存館、米山正幸副館長さんを講師としてお迎えし、8月8日（水曜日）午後2時から住民福祉センターで開催しますので、町民の方々の参加をお願いします。



問い合わせは町議会事務局まで。（☎088-542-2513）

田口先生に学ぶ

活性化に向けて!

議会議員も昨年の改選により若返りました。自らが厳しい行財政の現状を知り、新しい動きを学び、町の発展と議会改革に生かして行きたいと、今年度から行政の先駆者である新潟県立大学、田口一博先生を講師に、研修を重ねています。7月に第2回目となる会議を開き、①決算審査 ②予算案の審査 ③通年議会についてを学びました。



*「通年議会」とは

町長が年1回、1月に議会を招集し、議会の議決により、その会期を12月までの1年間と設定することであり、平成20年に北海道・白老町に始まり現在10町村で実施しており、今も拡がりをみせております。

ぶっついぞ! 勝中クラブ活動

バスケット部



クラブ紹介

バスケット部は男子25名、女子12名の活気あるクラブです。

県下でも強豪としての伝統を受け継ぎ、勝利をめざして一生懸命練習に励んでいます。

●男子キャプテン

平間 太雅くん

選手が大勢いたので、色んな練習や試合の組み合わせができた。今度の総体が最後の試合となるので、悔いのない試合をしたい。

中村健太郎くん

パスをカットされないポイントガードになる。

中山裕斗くん

シューターとしてスリーポイントを入れたい。

●女子キャプテン

清水彩音さん

ポジションはガード。今回の総体は3年前の先輩が負けた上八万中学校との対戦なので、ベスト8をめざすためにめざひりベンジしたい。

平井まど佳さん

小2から始めたミニバスケットで鍛えてきた。スタミナには自信あり。左45からのシユートが得意。

美馬佳苗さん

中学になってから始め、ジャンプシユートが得意。

東 日奈子さん

リバウンドを取れる自信あり。ゴール下のシユートが得意。

編集後記



梅雨もやっと明け、まぶしいほどの夏がやってきました。体調を整えながら、節電の工夫で日々の生活習慣に「エコ」を定着させたいものです。

新しいメンバーで編集した「議会だより」を、お届けしてはや1年が経過しました。

「伝えたいことを分かりやすく」が私たちのモットーで、写真や、原稿の全てを自らで編集しています。

発足したモニター制度の意見などを参考に、もっと皆さんに親しまれより充実した「議会だより」に向け、これからも努力を重ねて行きたいので、ご意見・ご感想を、心よりお待ちしております。
(友子)

